

令和8年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア (参考)英語3技能
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	66	52	44	4.7	11.9	442
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 全国と比較して、「書くこと」の領域において本校の正答率は55.6%であり、全国平均の67.4%を11.8ポイント下回る結果であった。「話すこと・聞くこと」（52.3%）や「読むこと」（47.7%）と同様に全国水準には達しておらず、自身の考えを論理的に構成して文章に表現する記述力に課題が見られる。今後は、日常的な授業の中で、目的や意図に応じて情報を整理し、根拠を明確にしながら文章にまとめる「書く活動」を各教科で意図的かつ継続的に取り入れ、思考力と表現力を総合的に育成していくことが求められる。

＜数学＞ 全国と比較して、「関数」の領域において本校の正答率は40.5%であり、全国平均の54.8%を14.3ポイント下回る結果であった。最も正答率が高い「数と式」（58.0%）と比較しても定着に課題があり、伴って変わる2つの数量の関係を的確に読み取り、表や式、グラフに表して論理的に考察する力に大きな伸びしろがある。今後は、基礎的な計算力の定着を図ることに加え、身の回りの具体的な事象から関数の関係を見だし、数学的な根拠に基づいて筋道立てて説明し合う探究的な学習活動を充実させることが必要である。

＜英語＞ 全国と比較して、IRTバンド2の割合が40.0%（全国28.2%）、バンド1の割合が9.1%（全国4.7%）と、下位層の割合が全国を大きく上回る結果であった。また、上位層であるバンド4（7.3%、全国22.7%）やバンド5（0.0%、全国5.9%）の割合は著しく低く、平均IRTスコアも442（全国499）と大きな課題が残る結果となっている。基準となるバンド3の層（43.6%）は全国（38.4%）を上回っているものの、全体として基礎的な知識や技能の定着に困難を抱える生徒が多いことがうかがえる。今後は、つまづきのある生徒に対する丁寧な反復指導やサポート体制を強化し、基礎力を着実に定着させて全体的なスコアの底上げを図ることが喫緊の課題である。

今後に向けて

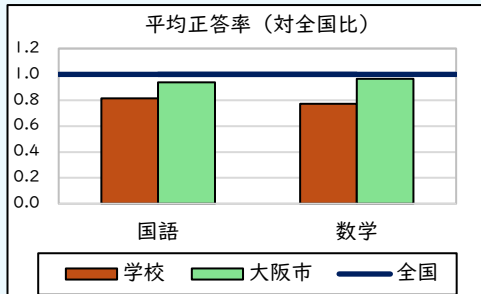
授業規律を確保しつつ、生徒の学力向上に向けた授業改善に向けた取組として、本校生徒の強みである高い道徳観や豊かな協調性を生かした対話的な学びを充実させ、課題である国語の「読むこと」や数学の「図形」、英語の基礎力定着を図る指導を行う。具体的には、根拠に基づき論理的に説明し合う活動を各教科で意図的に設定する。

体力向上については、授業の中で仲間と達成感を共有し、自己肯定感を高める運動を実施する。また、朝食の欠食等に表れている基本的な生活習慣の課題に対して家庭と連携した啓発活動を推進し、学力向上と健やかな成長の基盤となる自己管理能力の育成に学校全体で取り組んでいく。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

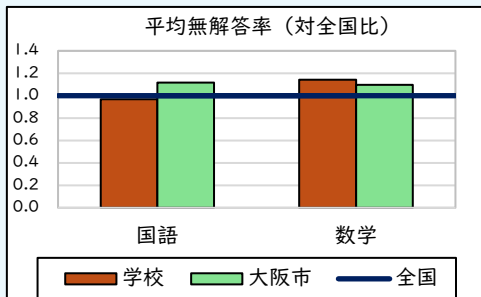
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	52	44
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



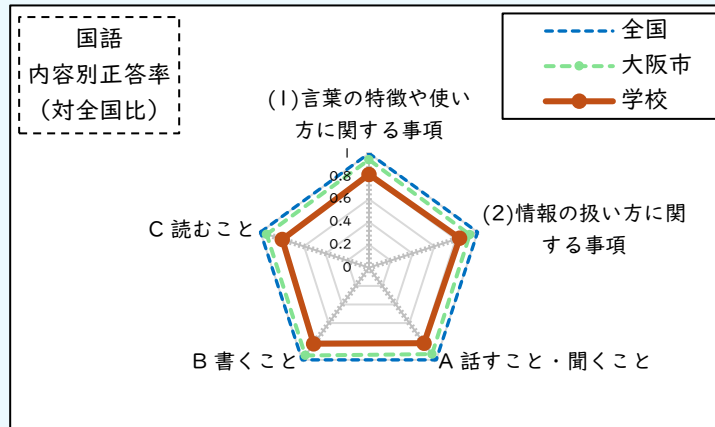
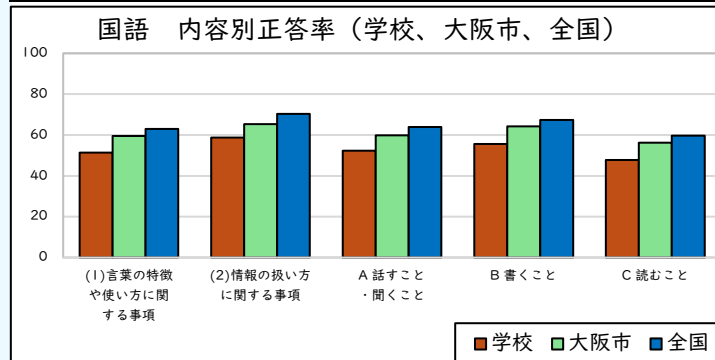
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	4.7	11.9
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



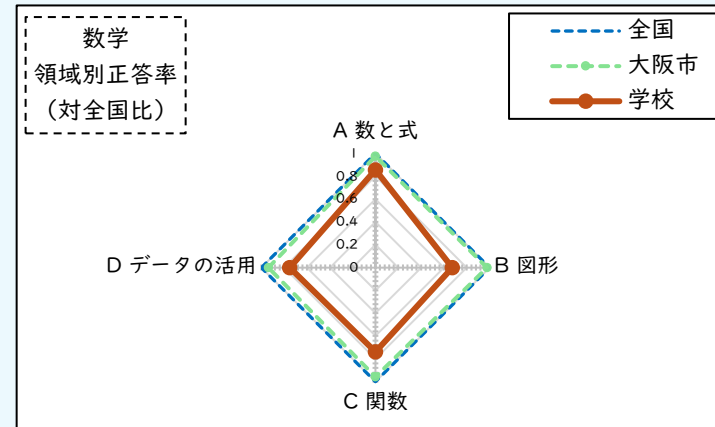
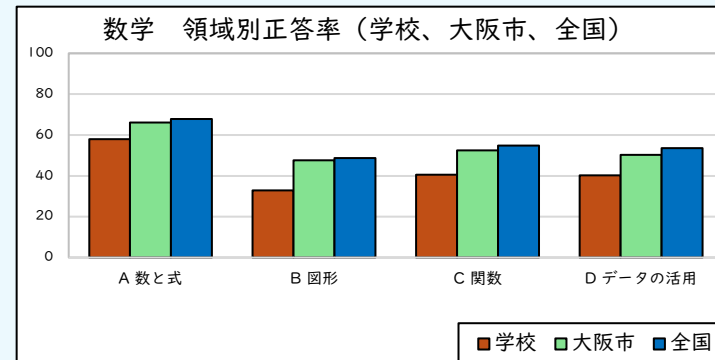
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	51.4	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	58.8	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	52.3	59.9	63.9
B 書くこと	3	55.6	64.2	67.4
C 読むこと	3	47.7	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	58.0	66.1	67.8
B 図形	4	32.8	47.6	48.7
C 関数	3	40.5	52.5	54.8
D データの活用	4	40.2	50.2	53.5

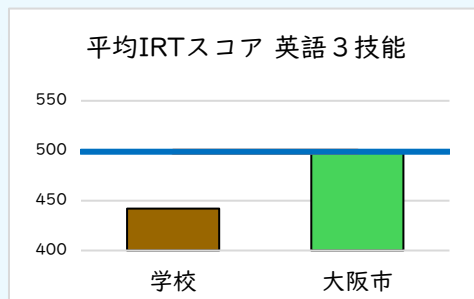


令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	(442)
大阪市	(499)
全国	(499)

※（参考）3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

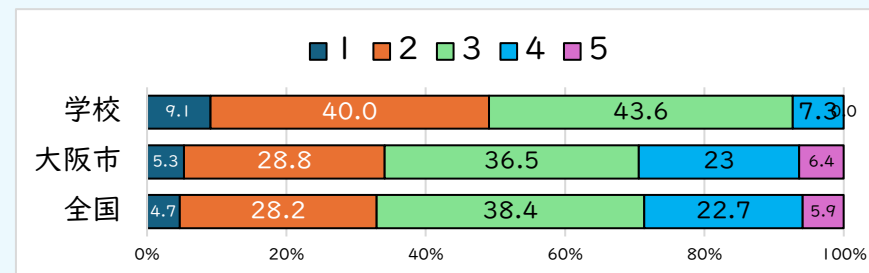
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（3技能）

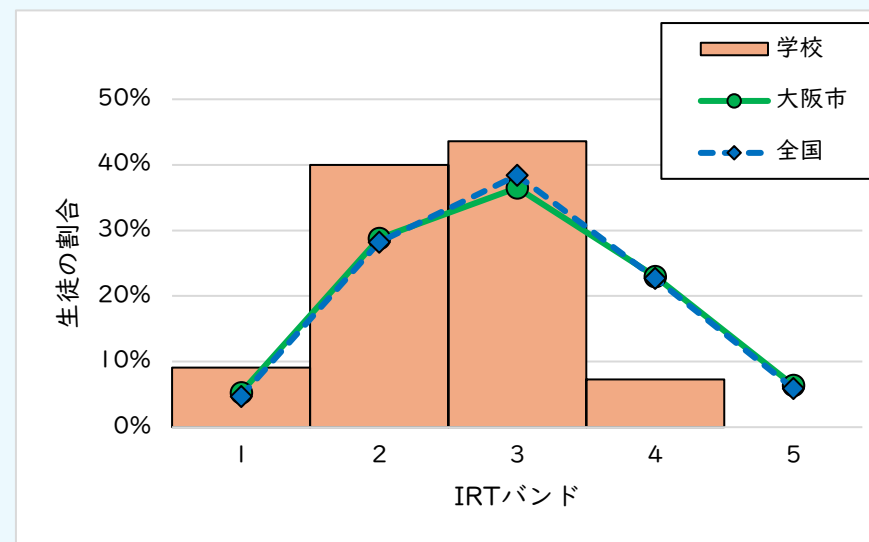
	1	2	3	4	5
学校	9.1	40.0	43.6	7.3	0.0
大阪市	5.3	28.8	36.5	23	6.4
全国	4.7	28.2	38.4	22.7	5.9

※3技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（3技能）



IRTバンド分布グラフ（3技能）



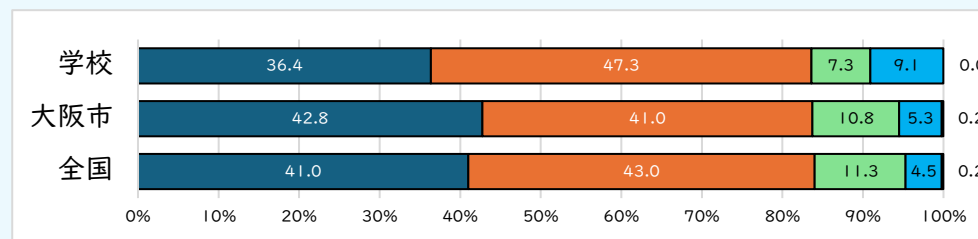
生徒質問調査より（１）

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

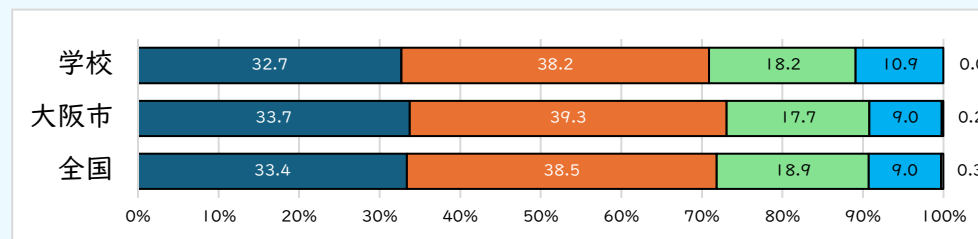
質問番号 質問事項

(8)	自分には、よいところがあると思いますか
-----	---------------------



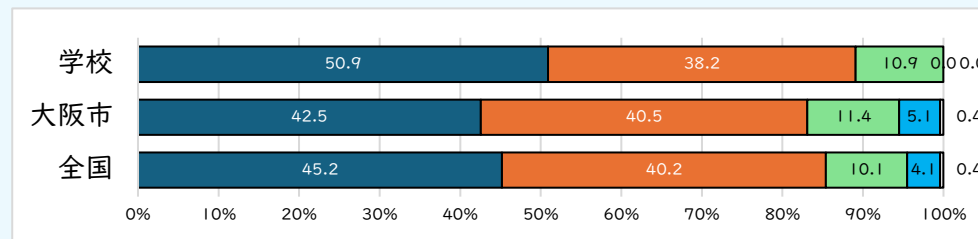
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(13)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
------	-------------------------------------



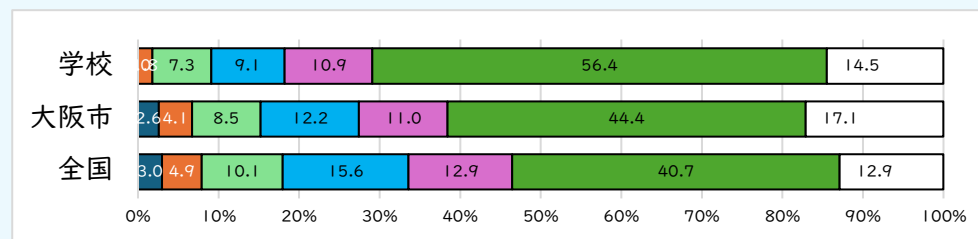
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(15)	学校に行くのは楽しいと思いますか
------	------------------



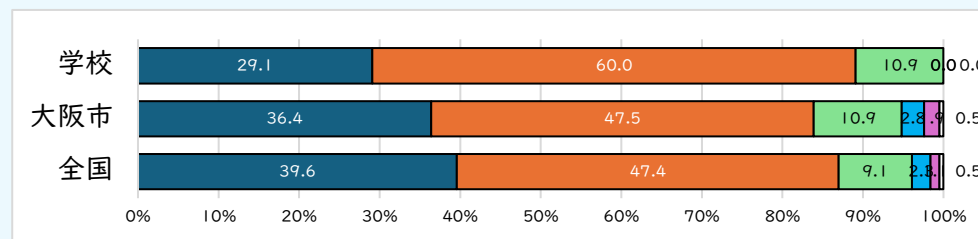
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(26)	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）
------	--



- 1 2時間以上
- 2 1時間以上、2時間より少ない
- 3 30分以上、1時間より少ない
- 4 10分以上、30分より少ない
- 5 10分より少ない
- 6 全くしない

(42)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
------	---



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない
- 5 学級の生徒との間で話し合う活動を行って

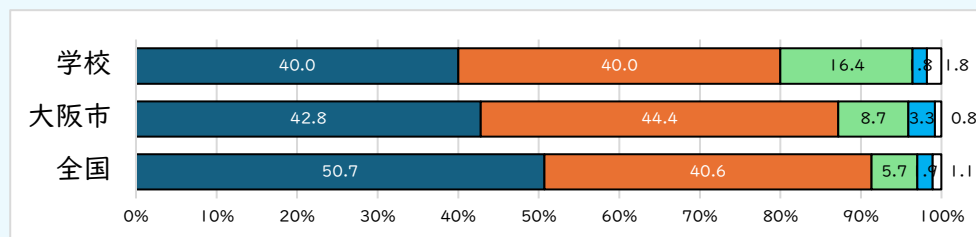
生徒質問調査より（２）

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

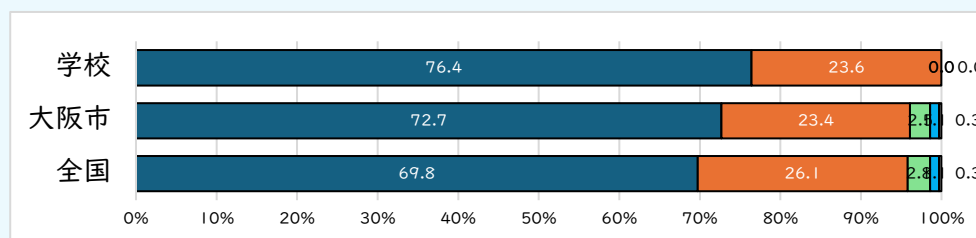
質問番号 質問事項

(51) 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか



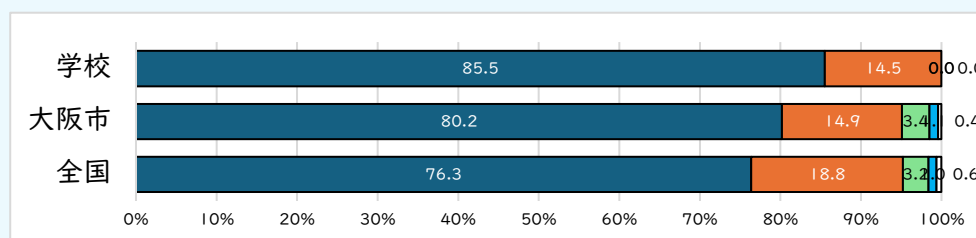
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(14) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



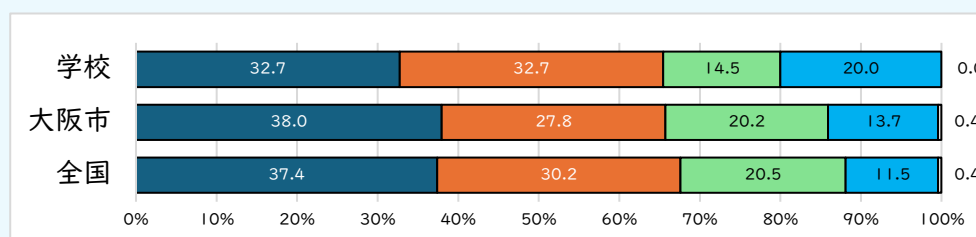
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



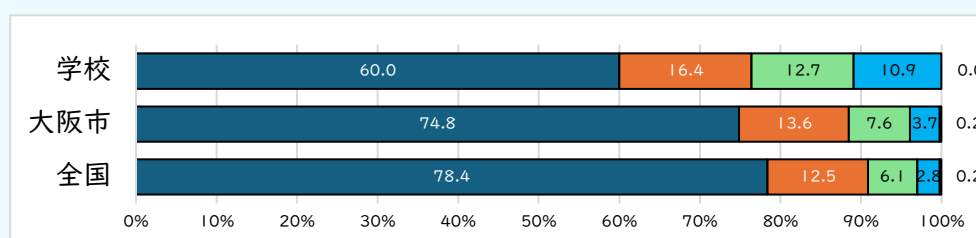
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(10) 将来の夢や目標を持っていますか



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

(1) 朝食を毎日食べていますか



1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

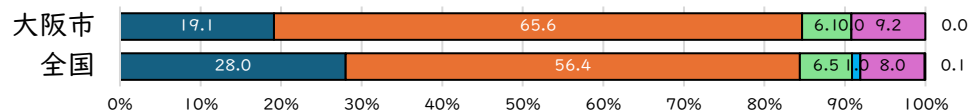
質問番号

質問事項

(87)

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

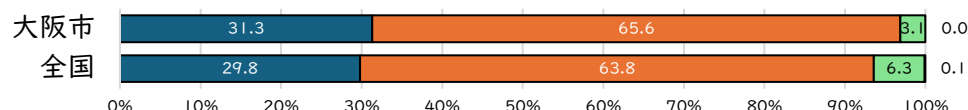


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない
- 5 取組を行わなかった

(92)

令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

【学校の回答】 2 行った



- 1 よく行った
- 2 行った
- 3 ほとんど行わなかった